

編集後記

巻頭論文は久しぶりに看図作文です。描き下ろしの絵図 20 枚を使っています。絵図の作者は本研究会専属アートスタッフ石田ゆきです。これらの絵図には大人と子どもがひとりずつ描かれています。そして、どの絵図も描かれている子どもが放っている「熱量」がすごいのです。一緒に描かれている大人と比べて温度差が感じられます。このため私たちは一連の絵図に「温度差」という名前をつけました。こういう「ズレ」が描き込まれた絵図を使うと「名作作文」が続出します。これらの絵図を使って、看図作文授業を行いました。授業者は、看図作文授業回数日本一の森 寛です。その実践記録を森がまとめてくれました。本研究会の願いは「現場に届ける」です。森論文は、「現場に届く」わかりやすい文章で綴られています。どうぞご一読ください。また、生徒たちが自らの可能性を広げながら書いた作文も、ぜひ「鑑賞」してください。「温度差」絵図は、森の方法以外でも授業に取り入れることができます。「温度差」絵図を用いた、多様な授業づくりにチャレンジしてみてください。そしてその実践記録を本研究誌に投稿していただければ幸いです。

第2論文は看図アプローチの実践校、長崎県央看護学校のホープ藤井愛美の実践です。藤井は看図アプローチの本質を適確にとらえ、実践を組み立てています。藤井の思考のしなやかさが伝わってくる実践を、研究会のエース山下雅佳実と石田ゆきが両脇をかためて論文化しました。「現場に届けたい」論文に仕上がっています。こちらもご一読ください。

第3論文は江草千春の実践です。定時制高校をフィールドにした、英語の授業実践です。まだ誰も試みたことのない取り組みです。またひとり、フロントランナーが誕生しました。江草はこれからさらに実践を重ねる準備をすすめています。これからたくさんの論文が生まれてくると思います。江草は、鹿内が北海道教育大学岩見沢校に在職していた時の教え子です。多くのご縁に支えられて看図アプローチは発展しています。この研究誌を読んでいただいている皆様の実践もどんどん論文として発信していきたいと思っています。

文責 鹿内信善

———— 全国看図アプローチ研究会研究誌 13 号 ——

発行年月日 2022 年 6 月 19 日

編 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員

石田 ゆき

伊藤 公紀

鹿内 信善 *

山下雅佳実

渡辺 聰

(* 印は編集代表)

発 行 全国看図アプローチ研究会



kanzu-approach.com

事務局長 山下雅佳実 (中村学園大学短期大学部)

編集長・DTP 石田ゆき